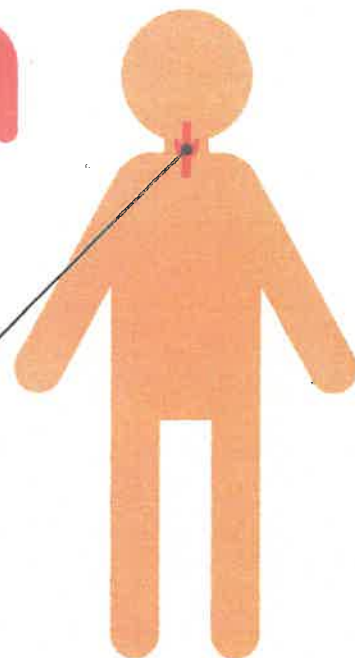


臓器のはなし



今月は 甲状腺

日々の元気を助ける
ホルモンをつくる

女性がかかりやすい
橋本病とバセドウ病

身体には内分泌器官と呼ばれる、さまざまなホルモンをつくる臓器があります。甲状腺はその一つで縦横4~5cm、重さ16~20g。喉仏の下にあり、蝶^{チョウ}のような形をしています。この臓器でつくられるのが、新陳代謝を促す甲状腺ホルモン。正常に分

泌され代謝を繰り返すことで、我々は元気に過ごせるのです。分泌が不足すると活動性が鈍くなり、全身のだるさや眠気を引き起こします。

主な甲状腺の病気は、橋本病とバセドウ病。ともに女性がかかりやすく、壮年期以降の方に多いのが橋本病で、慢性的に炎症が起き、甲状腺ホルモンの分泌量が下がります。

バセドウ病は、甲状腺ホルモンが過剰に分泌されて脈が速くなり、心拍も上がる動悸症状が特徴。寝ていても心臓がバクバクし、走り続けているような状態となり、悪化すると心不全を招く可能性も。

また甲状腺ホルモンの分泌が過剰になると、エネルギーを激しく消費するため痩せて、眼球が突出して目が大きく見えるように。これは甲状腺を刺激する抗体が目の奥の筋肉や脂肪に炎症を起こし、腫れて眼球が前に押し出されるのが原因です。

怖がらなくてもよい疾患
ホルモン量の調節を

どちらの病気も治療法は確立されています。橋本病の場合は同ホルモンを補充する薬を、バセドウ病の

場合はホルモンを抑える薬を服用してコントロール。改善されるケースがほとんどでしょう。

ただし薬物療法による治療は長期にわたることがあり、バセドウ病が薬で改善しない方には、放射線療法や手術療法をすすめられるかもしれません。アメリカでは薬物治療より受ける人の数が多いそうです。

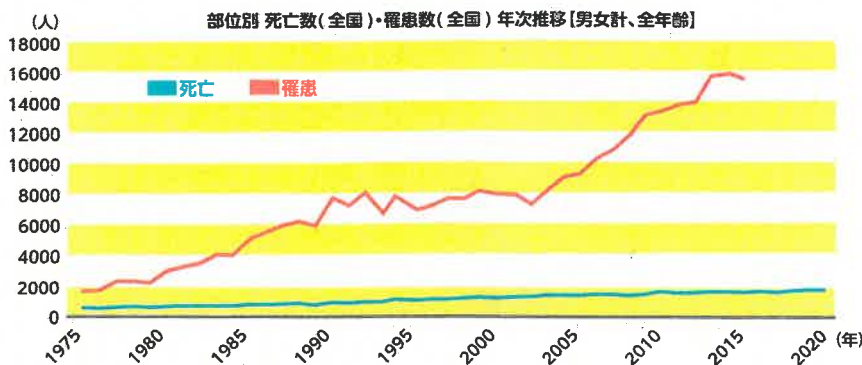
健診や人間ドックで、甲状腺が腫れていたら、医師は確認するはず。

バセドウ病なら、聴診器を当てると雑音が聴こえることもあります。また血糖値が上がリ、コレステロール値が下がる傾向も…。その際は、甲状腺ホルモンの量なども追加で調べます。

また橋本病は、症状が軽いうちは見落とされがちですが、コレステロール値が高くなる傾向があり、その時に甲状腺ホルモンや甲状腺を異物とみなす「自己抗体」を調べて診断します。

なお甲状腺がんには何種類かありますが、9割以上が乳頭がん(がん細胞が集まって乳頭のように見える)で、10年生存率95%以上と「予後が良い」データがあるそうです。

甲状腺がん 罹患数と死亡数



出所：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん種別統計情報「甲状腺」」より

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。